

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.24 2011年1月号

ザンビア 新事業開始！

モンボシ地域で安全な妊娠/出産を支援する新たな事業がスタートしました。

☞p.2

ザンビア 学校建設支援進捗状況

ンコンジェ地区のコミュニティースクール建設支援の進捗状況をお届けします。

☞p.3

カンボジア 事業終了間近に迫る！

いよいよカンボジアの事業が大詰めを迎えています。

☞p.4

カンボジア インターン離任の挨拶

2010年4月からカンボジアの事業を支えてきたインターン生から離任の挨拶です。

☞p.5

事務局

学生団体のザンビア訪問時の感想と国内での活動をお伝えします。ザンビア事務所の新職員もご紹介します。

☞p.6-8

龍馬に学ぶ、現代の地球人の生き方のヒント

TICO 代表 吉田 修

龍馬伝がブームです。誰もが龍馬の生き方に憧れる、日本人のヒーローです。そういう私も大いに憧れます。「竜馬がゆく」を読んで「龍馬伝」を見ただけの私などが語るのもおこがましいのですが、彼の偉大さは次の9つにあると思います。

1) 当時の武士を縛っていた「藩」と言う概念を軽々と超え「日本人」として生きたこと

2) ただの脱藩浪士という立場で、金持ちでもなく、学問をした訳でもない彼が、本気で260年続いた日本の仕組みを根本的に変えようと考え、行動し、そして成功したこと

3) 世界の新しい情報を入手し、既成概念にとらわれず全く新しい感覚で次の時代を創造したこと

4) 世界の中での日本の弱い立場を客観的に理解し、日本を守る最良の方法を求めたこと

5) 民主主義の良さを直感し導入しようとしたこと

6) 株式会社の仕組みを吸収、実践した（武士が商売をした）こと

7) 様々な立場や身分の人を尊重し、どちらにも利益がある方法を行ったこと

8) 戦争以外の解決方法があると信じ説得したこと

9) 誰にも好かれるキャラクターであったこと（龍馬伝では「人ったらし」と表現されていた）

明治維新は、大規模な内戦を回避し、他のアジア諸国が次々と植民地となるなか、列強による植民地化を阻止し、日本を議会制民主主義（初めて選挙が行われたのは明治22年ですが）に導いた偉業です。もちろん龍馬だけでなく、命をかけて行動した、あるいは命を落とした多くの志士がいました。長州の奇兵隊に参加した市民など、一般市民も積極的に参加し、まさに日本人の総和が幕末という危機的な状況を乗り越えて明治維新という偉業を成し遂げたのだと思います。

21世紀の世の中は、幕末の日本よりもは

るかに危機的な状況ではないでしょうか。地球温暖化、森林の消失、生物多様性が損なわれ、人類を含めた地球上のすべての生物が絶滅の危機に瀕しています。人類にとっては、石油を代表とする資源の枯渇、多くの国家の財政破綻、貧富の格差の増大、未だに止まらない軍拡競争など、明るい未来が見えない状況です。

こんな時代こそ、広い視野でこれまでの既成概念から脱出し新しい価値観をもった「地球人」として行動し、対立を回避し全体が得をする方策を模索する、社会の仕組みを根底から変えることが必要です。資金もない、権力もない一般市民やNGOが世界を変えられると信じて行動する。まさに龍馬の生き方ではないでしょうか。



よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。

新プロジェクト、スタート！

チボンボ郡 地域住民が支える安全な妊娠/出産の支援事業

酒井浩子（保健医療専門家）

2007年から2010年5月までプライマリーヘルスケア・プロジェクトが実施されたザンビアのモンボシで、その3年間の経験から見てきたコミュニティのニーズを基に、「妊産婦ケア」に焦点を当てた新事業が始まりました。モンボシ地域の女性の妊娠・出産をめぐる状況が改善し、安全なお産が可能になることを目標とした3年間の事業で、JICA草の技術協力事業として実施されます。

モンボシは、首都ルサカから約100Km北上した、27の村からなる人口約2万人の地域です。ザンビアには70以上の部族がありますが、部族によっては一夫多妻が認められており、社会的・文化的理由から子どもをより多くもつことがよい或いは誇りであると考えられているところがあります。村を訪れると、子どもを6-7人、ときには10人以上持つお母さんに会います。ザンビア全体でみても、一人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均は6.2、と子どくさんの国ですが、とくにモンボシのような田舎の地域では子どもをたくさんもつ家庭が多いようです。また、ザンビアでは妊娠/出産の過程の中で命を落としてしまう女性もまだまだ少なくありません。

村のお母さんたちにどこで子どもを産んだか尋ねてみると、「自宅」と答える人が圧倒的に多いです。また自宅で出産した人に、誰が出産を介助したか聞いてみると、「家族」「親戚」「近所の人」など出産介助の研修を受けたことがない人がほとんどです。妊娠/出産に関する知識が十分でない人が介助することで、分娩中・分娩後に何か異常が起こってしまった際に、判断や必要な処置が遅れてしまい、またヘルスポストに搬送する手段も準備され

ていないため手遅れになってしまうこともあるといいます。

モンボシでは、資格をもった医療従事者はヘルスポストに勤務する看護師/助産師1人のみ、研修を受けた出産介助者（TBTA）も2名だけです。知識と適切な技術をもった人の介助を受けるには、ヘルスポストに行くのが一番ですが、ヘルスポストから離れたところにある村では、ヘルスポストまでの公共交通機関はないため徒歩で平均3-4時間かかってしまいます。保健ボランティアの一人は、「陣痛が始まってからでは、車でないとヘルスポストまで行けない。今は車を借りる余裕がある家庭の人しか行けない。でもお産を待つ家ができれば、慌てずに前もって行くことができるため多くの人が施設で助産師の介助でお産できるようになる。命がかかっていることには家族も理解を示すから数日間家を空けることは問題ない」と話してくれました。

ヘルスポスト以外に、適切な出産介助者がほとんどいないこと、何か異常が起こった際の救急車など搬送手段の手配を考えると、モンボシではヘルスポストでの出産が母子の安全のためには最善と考えられます。

『チボンボ郡地域住民が支える安全な妊娠/出産の支援事業』では主に、以下の4つの活動を行っていきます。



活動1.
保健省が勧めるSMAG（Safe Motherhood Action Group；地域の安全なお産支援グループ）を編成し、メンバーを養成する。妊産婦登録から健診、分娩まで安全に経過するよう、地域の住民が主体的に関わっていく。

活動2.
妊産婦が基礎的な保健知識をもつことができるよう、SMAGメンバーなど住民保健ボランティアが、栄養・妊娠・出産についての健康教育を行う。

活動3.
住民保健ボランティアが担当地域の人口動態や保健問題を把握し、特に問題があった事例については原因を協議し、改善策をヘルスポストや郡保健局とともに実践する。

活動4.（自己資金にて実施）
お産を待つ家（*遠隔地に住む妊婦が陣痛発来前から出産まで待機できる宿泊所）を建設し、遠くに住む妊婦さんが予定日前から待機し施設で分娩ができるよう環境を整え、施設分娩をすすめる。



プロジェクトは始まったばかり。いろいろと予定していなかった状況もありますが、プロジェクトの活動はそのときの状況にあわせ、柔軟に対応しながら進めていきます。現在は保健省の担当官と活動内容等に関して話し合いを重ね、SMAG研修の打ち合わせをしています。

村では、研修を受ける人の人選もう終わったようで準備万端です！彼らの期待に応えられるよう調整をすすめていきたいと思います。引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。



村人みんなで建てる小学校 ンコンジェコミュニティースクール



黒田晶子（業務調整員）

Face to Face 23号で学校建設の開始をお伝えしたンコンジェ コミュニティースクール。あれから3ヶ月経ち、小学校建設にはどのような進展があったのでしょうか？TICOとセカンドハンド、ンコンジェ村の住民が手を取り合って取り組む学校建設の様子をご報告します。

待ちに待った学校建設のための測量が2010年9月に始まって以来、ンコンジェは今までの静かな村からは考えられないほど賑やかです。村のレンガ職人や大工さんが集まり、校舎の基準位置を決定し、土台にコンクリート流し入れ、鉄骨の枠組みを組み立てました。今まで何も無かった空き地に、今では丈夫な鉄骨のフレームと鮮やかな緑色の屋根が2棟も建っています。

現在コミュニティの人々は鉄骨に沿って壁と床を積み上げるため、コンクリートブロックを作製したり、レンガを焼くのに大忙しです。校長のシアドゥンカ先生は「新しい校舎が建つなんて本当にまだ信じられないんだ。天国にいるような気分だよ。」と喜びを噛み締めている様子。

着実に工事を進めているンコンジェですが、ここまで来るにはさまざまな紆余曲折がありました。ンコンジェへの支援が決定した当時、私達はザンビアの教育省が推薦するデザインでの校舎1棟、トイレ3棟、そして先生の家を建設を予定していました。しかし、お役所仕事はいずれも同じで、支援校が決定するまで教育省から図面は頂けません。やっと手に入れた設計図で建設費の見積もりをとったところ、物価や燃料の高騰から今回の予算を大幅に上回ることが判明。そこで教育省からの了解を得た上で建築の専門家と共にデザインの修正と予算の見直しを行なうことになりました。

また設計図の変更にあたり、今回の支援内容について改めてコミュニティと話し合いを行なったところ、先生の家とトイレよりもすべての生徒が屋根の下で勉強できるということのほうが大事だとの意見が多数出ました。

そこで専門家とも協議を重ねた結果、コミュニティの意向を汲み入れ、トイレ建設のための予算と教師の家の建設費の一部を転用し、2棟目の校舎の鉄骨と屋根を建設するよう計画を変更。少なくとも子どもたちが屋根の下で勉強できるようになります。2棟目の校舎のその後の建設とトイレ建設はコミュニティが責任を持って行なうことになりました。

校舎のデザインも無駄を省き、基礎工事の手法を変更することで経費を予算内に抑えられることになりました。教師の家については、現在校舎として使用している建物を改修工事して利用することになりました。村の人たちは「新しい校舎が出来ても、以前に自分たちが一生懸命作った校舎もずっと残るんだ。」と満足げです。一石二鳥どころか、一石四鳥です！

雨期がもうすぐそこまで来ているザンビア。雨が降る前に学校建設に必要なレンガをすべて用意するため、ンコンジェは村総出でレンガを焼いています。一生懸命工事に取り組むンコンジェの村人達への応援を引き続きよろしくお願い致します。



校舎の測量中



基礎に流し込む石を砕いている様子



校舎の柱と屋根

カンボジア4つの節目

カンボジアではまもなくJICA草の根技術協力事業が終了するにあたり、4つの活動を終えました。

1 救急対応ガイドライン完成&全国配布終了

下地美歩子（業務調整員）

カンボジア事務所で実施しているJICA草の根技術協力事業「プノンペン市西部地区の低所得者層の人々の命を守るセーフティーネット強化事業」に基づく救急対応ガイドラインが完成し、全国配布が終了しました。

このガイドラインは、緊急時に適切な応急処置を施すことを目的としたクメール語版救急対応手順書です。全体が25章で構成され、外傷や感電、水難事故、喉に物を詰まらせた患者の対応、心臓発作などの応急手当法が記載されています。保健省と国立病院の医師からなるテクニカルワーキンググループによって編集作業が行われ、写真や図を多用するとともに、平易な文章を用いて理解しやすいよう工夫されています。

全国配布先は、州保健局、その下にある保健行政区、リファラル病院（診療所等からの患者の転送を受け入れる病院）、ヘルスセンター（診療所）、ヘルスポスト（ヘルスセンターの下にある施設。医療従事者が常駐していない場合もある）に加え、各州の警察局と医療技術者養成学校へ配布しました。配布は、編集を担当したワーキンググループのメンバー2名1組が全国20州4特別市をまわり冊子を届けるとともに、各州担当者へガイドラインの作成目的や活用方法の説明、各地域における現状や今後の活動方針（トレーニング実施計画等）について意見交換をするガイダンス形式で進められました。



ガイドライン配布の様子

2 住民対象のファーストエイドに関するワークショップ終了

大坪加奈子（事務所長）

3月から開始した住民対象のファーストエイドに関するワークショップが一通り終了しました。これまで39回にわたって開催し、参加者は合計1,867名に上ります。全世帯を対象とし、1世帯につき1名に参加して頂きました。

しかしながら、全世帯を対象にワークショップ開催をすることは、本当に大変でした。当日になってから突然、「ボン（祭り）があるので参加できない」と言われたことも何度か……。雨だと極端に参加者が少ないかと思いきや、会場に入りきらないほど予想外に参加者が集まることもありました。とは言え、たくさんの方々のご協力のお陰でワークショップを開催することができました。田植えて忙しい時期にもかかわらず、サポートしてくだ

さった地域ボランティアさん、参加してくださった住民のみならず、色々な方々の顔が浮かんできます。ワークショップ開催後に、参加者から「近くで事故が起きた時に、教えてくれたポチェントン病院の救急車を呼んだよ。」と言われた時は、ワークショップの成果が少しずつ、でも着実に出てきているのだと感じました。

様々な地域を回り、地域毎に歴史・文化や地域のつながりも全く異なるということも実感しました。カンボジアでは家族内ですらあまり情報を共有しないといわれていますが、ワークショップで学んだことを家族や地域の方々とも共有してもらえよう切に願います。



感染防御の説明をするボランティアさん



クイズに答える村の参加者たち

3 香川県からの専門家派遣事業支援終了

12月の初め、JICA草の根技術協力事業（地域提案型）である「香川らしい国際協力プロジェクト」により、香川県から専門家が派遣され、ワークショップが開催されました。TICOの事業ではありませんが香川中央病院、香川県国際課の方々と協力し医療技術者研修を開催しましたのでご報告します。

ここカンボジアでは、下痢で亡くなる患者がいる一方で、糖尿病や高血圧、高脂血症など脳卒中や心疾患の原因となる生活習慣病の患者も数多く存在し疾病の二重負荷が問題となっています。実際に、研修が実施された市民病院の集中治療室には常時脳卒中の患者さんが数人入院しているというのが現状です。またこの機関誌で何度も報告されているように交通事故の患者も多く頭部・腹部外傷の詳細な診察も必要不可欠なものとなっています。



瞳孔計の使い方を指導する松本院長

今回の研修内容は、全身観察と診断、頭部外傷や神経症状の診察法、腹部救急、腹部超音波での診断技術など盛りだくさんの内容でした。また、本研修の直前の11月22日に発生した水祭りでの将棋倒しの事故（報道期間によりデータは異なりますが、375人の死者と755人の負傷者が発生）を踏まえ急遽トリアージ（災害時における患者重症度及び治療優先度の選別）の講義も行われました。今回の研修は、実技が多く取り入れた内容でカンボジアの医療者が真に必要なとしている知識及び医療技術移転が行われたのではないかと思います。

4 インターン終了のご挨拶

つい先日、インターン開始の挨拶をしたばかりですが、月日が流れるのは本当に早いものであつという間に研修終了のご挨拶をする時期がきてしまいました。

これまでに看護師として経験してきたことを活かすことができるようなプロジェクトで研修を受けたいという思いから、カンボジアでのインターンを希望するに至ったのですが、TICOカンボジア事務所のスタッフの方々は本当に心の底からカンボジア、そしてカンボジアの人々のことを想われており、私のようなプロジェクトありきでカンボジアを選択したものとしましては、本当に頭が下がる思いでした。

この研修を通じて学んだことは数多くありこの場で十分には語りつくせないものですが、強いて一つ挙げるとするならば、公共の利益を考えることは本当に難しいということです。プロジェクトを通じて誰かが裨益したとしても他の誰かにはその恩恵が届かないということが多々あります。届かないだけならまだしも時には

田中準一（インターン）

損をしてしまう人間すらいたりします。皆が自分の利益だけを追求しているような状態では公共の利益の確保はまなまりません。救急医療システムを構築するという、今回のような様々な人や機関が関わるプロジェクトでは事態は非常に複雑な様相を呈しており、考慮しなければならない正や負のインパクトは無限の広がりを持って私たちの前に立ちはだかりました。国際協力事業を行う現場で実務を通してこのように考える姿勢の大切さに気が付けたことは私の一生の財産になるのではないかと思います。

今回の研修では大学院の座学だけでは決して学ぶことができない貴重な経験をすることが出来ました。カンボジアで過ごしたこの8か月間は私の人生にとってかけがえのないものであり、私を大きく成長させてくれたのではないかと思います。私のカンボジアでの活動を支え、ご支援・ご指導を頂いたTICO支援者の皆様やTICOスタッフ、JICA関係者、大学関係者、家族、そして何より未熟な私を温かく受け入れて下さったカンボジアのみなさん、本当にありがとうございました。



ブンペン市西部の村々を訪れ何度となく行った住民啓蒙ワークショップ。

地域住民の病気や外傷に関する認識や伝統的対応・価値観に接する大変良い機会となりました。



カンボジアで驚いたのは若い女性がパジャマを着て外にでかけることです。文化の違いとは驚くべきものです。ちなみに日本人スタッフお二方はコンビニまでは出かけることが出来るそうです。『郷に入っては郷に従え』その根性、感激ものでした。

学生たちの ザンビア体験記

IFMSA-Japan（イフムサ：国際医学生連盟-日本）の学生たちが、2009年より年2回プロジェクト実施のためザンビアのモンボシを訪れるようになりました。2010年は春と夏に学生がモンボシでかまどの普及を中心に、歯磨き習慣やラジオの普及率、離乳食の現状などについて聞き込みを実施しました。メンバーからそれぞれ感想が届きましたので、皆さんにご紹介します。

春



肌で感じたアフリカ。それは私の価値観をガラッと変える、かけがえない経験となりました。今まで考えてもみなかった『国際協力のジレンマ』を目の当たりにして、どうしたらいいのかと私は帰国後ずっと悩んでいます。答えは出ないかもしれないけど、諦めずにずっと考え行動することで『地球人』に一步近づけるのではないかと思います。（北海道大学医学部4年 北畑怜奈）

アフリカで過ごした日々は、自身の五感を最大限に使っても足りない程、刺激的な毎日でした。また滞在中、深く考えさせられた豊かさや幸せのあり方… 毎日が学びの連続でした。TICOのご協力のもと成し得たこの貴重な経験を活かし、これからも夢に向かって突き進んでいこうと思っています。（山口県立大学看護学部4年 成俊浩）

将来国際協力をしたと思っていた私にとって、学生の間にTICOさんのご協力のもとアフリカを訪れる事が出来たのは非常に貴重な体験となりました。国際協力の難しさ、やりがい、現地の人たちの温かさ、全てが想像では補いきれないものでした。アフリカで経験した事が将来の糧になると思います。（横浜市立大学医学部3年 南原優希奈）

実際にザンビアを訪れることで、知識としてしか私の中に存在しなかったアフリカの諸問題が、今ではかなり身近な問題になりました。そして、今では国際保健にずっと携わっていかたいとも考えています。モンボシの子供たちのキラキラとした笑顔は一生忘れられません。TICOさんのおかげで、人生観が変わる素晴らしい体験をすることができました。（浜松医科大学医学部2年 杉山未紗）

アフリカ訪問は私の人生において必ず成し遂げたいことのひとつでした。TICOの方やIFMSAの仲間のおかげで、思いの外、早く機会に恵まれました。専門分野にも国際協力にも無知の状態でしたが、素晴らしい経験となりました。経験は自信や刺激となり、今の私に大きな影響を与えています。ありがとうございました。（千葉大学医学部3年 玉腰大悟）

当地で国際保健の難しさ、そして自分自身の甘さを身をもって学ぶことができたばかりでなく、自分自身を見つめ直すとても良いきっかけとなり、帰国後長所を伸ばし短所を補うような努力をするようになりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。（北海道大学2年 福田開人）

ザンビアで過ごした3週間で人々や自然の営みを目にし、人が“生きている”ことと、地球や宇宙の偉大さを感じた。自分が確かに存在し、それは多く存在する生命の中のほんの小さな存在でしかないことを実感した。それは、アフリカという大地が生命力に満ち溢れているからだと思った。（国際医療福祉大学4年 岩松真里）

広大な大地と夕焼け、星空、そしてCHWさんや村の人々と子供たち。みて、きいて、貴重な経験ができた3週間でした。村、都会、観光地、それぞれでいろいろな人に会い、お世話になりました。遠いアフリカの人々、一緒に過ごし学んだ仲間、そしてこの派遣を支えてくれたみなさんに感謝です。かまどが広まるといいなと思います。（福井大学2年 成山美々）

モンボシの方々は、活動的で、何をするにも積極的で、いつも笑っていました。どんな事でも、彼らとなら楽しくやれる、そう思わせる雰囲気を持っている方たちでした。実際、僕たちのプロジェクトやアイデアに本当に献身的にかつ明るく向きあって下さり、僕らも頑張ることができました。TICO含め、お世話になった方々、ありがとうございました。（福井大学3年 森田匠）

8月終りに1週間、夏派遣メンバーと一緒に訪らせていただき充実した渡航となりました。念願だったアフリカに行つて、人々とお話し、ホームステイさせていただいたことで、様々な立場の人のことを考えて行動することの大切さを再認識し、学生が現地に行つて事を成す難しさを痛感しました。（横浜市立大学3年 角和珠妃）

夏



国内事業一挙公開！

TICOは国内でも様々な事業に取り組んでいます。2010年はどんな活動を実施したのか、振り返ってみたいと思います。

TICO合宿



初の一般公募型合宿の開催！！

9月の連休に一般の方を募って合宿を開催

参加延べ人数は100人以上

2006年に始まって以来、学生団体や学校から多数の参加

様々な体験型学習と農作業

要望に合わせたスケジュールと内容、無農薬の米や野菜は農作業後に食べることが可能

イベント



チャリティーウォーク（徳島県鳴門市）

鳴門市賀川豊彦記念館主催（4/24）

アフリカンフェスタ2010（神奈川県横浜市）

活動紹介、ザンビア商品販売、ワークショップ（6/12-13）

ゆず畑の手入れ、ゆず狩り（徳島県美馬市木屋平）

わらびの会主催（6/20、9/26、11/14）

多文化共生フェスティバル（徳島県徳島市）

パネル展示（9/25）

他、バザー出展、パネル展示等、随時実施

→2011年は大阪で開催されるワンワールドフェスティバルに出展予定。（2/5-6）

地球人カレッジ



毎月1回の公開セミナー！！

国内外で活躍する方をお招きし、毎月実施

10月はとくしま県民活動プラザ「平成22年度アドバイザー派遣事業」の助成を受けて開催

TICO事業報告も地球人カレッジで

カンボジア、ザンビアのTICO事業報告、事業終了時に報告

講師派遣



講師派遣＝出前講座

小学校から大学まで、職場や地域の集まり等、依頼があればどこへでも

ザンビア紹介をはじめ、体験談を交えた国際理解教育、開発教育等、多岐にわたる授業や講義、ワークショップを要望に合わせて展開

合宿やイベント開催、講師派遣の依頼など、興味を持たれた方はTICO事務局までお問い合わせ下さい！！

新職員紹介

滝川麻衣

タンザニアでの青年海外協力隊の任期を終え日本に戻ったのが2010年9月末。当初の私の計画では、どこかに就職するなんて全くなかったのですが、TICOと出会ったが運のつき(?)。運命の出会いと一方的に信じた私は、ラブコールをかけ、ザンビア事務所の業務調整員として晴れて採用して頂けることとなりました。現在、TICOで働ける喜びをかみしめつつ、1月のザンビア赴任に向けて日本の事務局で修行中です。タンザニア人に鍛えてもらった根性で、ザンビアでも精一杯精進しますので、応援よろしくお願いいたします。



事務局長 福士庸二のつぶやき

「ムリ、ムリ」 ホントに『無理』?

近頃、会話で『ムリ、ムリ』というフレーズを時々耳にする。軽い気持ちで使っているのだろうが、私には、『放棄』することを宣言しているように聞こえ、心の中で『無理』なんて簡単に使って欲しくない」と思ってしまう。

ベトナムでボランティアをしていた時にクチトンネル（ベトナム戦争中、米軍を苦しめたゲリラ戦の基地）を訪れたことがある。そこには戦時中に使われていたヘリも展示されており、ガイドが墜落した米軍ヘリを自分たちの力で修理し飛ばしたと胸を張って話してくれた。当時、私はホーチミン市で自動車整備技術の指導にあたっていたが、随所で彼らの粘り強さを垣間見た。彼らは、実に粘り強い。長く鎖国状態にあった彼らは最新の技術についての知識はなかったが決して諦めないのである。行き詰ることはあっても、しばらく休んで食欲に学びまた修理を始める。そしてまた休み学ぶ。それを繰り返す姿は今でも強く印象に残っている。

途上国支援において結果を出すのは難しく、特にアフリカ支援は、「砂漠に水を撒くようなもの」と表現されるが、我々も諦めないこと、謙虚に学び続ける姿勢が求められているのではないだろうか。



ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方

西愛正、吉野川みんなの会、K's Pet Clinic 山崎貫太、高木クニ子、石岡ミサオ、美馬文子、TICOサポートクラブ、矢田安枝、北灘中学校、佐藤保夫、滝川久子、今心 株式会社、新野和枝、木屋平中学校、秋月良子、深田君代、安本カチエ、松浦サダ子、原田恵子、唐住洲子、みんなのチャリティー、阿部保幸、内藤健晴、井内一志、さくら診療所、吉田修、福士庸二、渡部豪、匿名5名

会員を更新された方

木村秀樹、井口千陽、神園索己、大多和通夫、神谷保彦、黒岩宙司、関谷晴孝、松島拓、森本一、山岡智互、遠藤千鶴、久保真一・恵子、鏡登志子、篠原幸隆、松田恵美子、中谷加奈子、池見真由、木本豪、K's Pet Clinic、徳島県医師会、ホウエツ病院 林秀樹、高島百合、藤本美香、峰尾武、大塚内科、肥後尚子、田淵規子、田淵幸男、渡部豪・あかり、匿名2名

●2010年9月22日～2010年12月16日分

●順不同、敬称略

書き損じはがきの回収も受付けています

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ) テイコ

募金箱 — さくら診療所 (徳島県吉野川市) に

常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

新たに入会された方

佐藤知里、森久美子、山崎順子、阿佐哲也、匿名1名

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000
正会員		¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOニュースレター Face to Face 第24号

2011年1月発行 発行人：吉田 修

編集：庄田多江

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話/ファクス：0883-42-2271

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：www.tico.or.jp